

コミュニティバス グルーンの実績について

2023年2月9日
常滑市地域公共交通協議会
事務局

とこじん住みたい
世界とつながる
魅力創造都市

1 概要

(1)計測方法について

- 運転手が目視で便毎の利用者を計測しており、月毎に運行会社から報告されます。
- 測定は**便単位**で、乗車した区間が全区間でも一部だけでも、同じ**1人**として計上されます。
- 3月から、システムにより**停留所ごとの乗降者数**を把握し、地域公共交通計画策定や、**ダイヤ・路線見直し時の基礎数値**として取扱う予定です。

(2)実績について

- 1日あたり**約770人**が利用しています。
- 1便あたりの利用者は12月に若干減少しましたが、冬休みや年末休みの影響を考慮すると、増加傾向が続いていると考えられます。

常滑北部・市役所線 常滑北部・大野線

- ◆ 市役所線は転換前に比べて増便し、休日も運行するようになりました。
- ◆ 大野線は鉄道へのアクセスとして、朝夕に新設しました。
- ◆ 他の路線と比べ始発から終点まで約1時間と長いのが特徴です。

常滑中部・市役所線 ボートレースとこなめ周遊線

- ◆ 市役所線は平日の利用が多く、通勤・通学路線となっています。
- ◆ 周遊線は休日の利用が多いのが特徴です。
- ◆ 時間帯や日によって利用の差があるため、より詳しい分析が必要です。

常滑南部・上野間線 常滑南部・武豊線

- ◆ 知多バスを転換し、武豊方面の路線を新設しました。
- ◆ 常滑駅～古場は、転換前に比べて増便しましたが、古場～上野間は減便になりました。
- ◆ 上野間線、武豊線とも1便あたりの利用者が全路線の平均を上回っています。

2 実績(詳細)

利用者数







